大阪商業大学ＦＤ委員会

# 大阪商業大学 FDニューズレター

第１５号
２０１５年 3月発行

# 目　次

１　第 6 回 FD 研修会開催される
～授業支援システム LMS の機能と活用事例紹介～----------1

２　有志による大学院夏期合同勉強会の実施報告
大学院地域政策学研究科　教授　西嶋 淳----------3

３　授業アンケートの改善について
FD 授業アンケートワーキング----------4

＜巻末資料＞ 第 6 回 FD 研修会 配付資料----------9

## １　第 6 回 FD 研修会開催される～授業支援システム LMS の機能と活用事例紹介～

2014 年 10 月 15 日（水）、本館 6 階大会議室において第 6 回 FD 研修会が開催された。昨年度実施した『大商大におけるアクティブラーニングの試み』に引き続き、今回も本学の先生方を講師として迎え、『授業支援システム LMS の機能と活用事例紹介』について講演を行っていただいた。なお、今回は樽磨和幸情報教育委員長、小磯かをる教授、佐藤仁准教授の 3 名に講師としてご登壇いただき、当日は約 50 名の教職員が参加した。講演の概要は以下の通りである。



西嶋淳 FD 委員長による講師陣の紹介後、まず樽磨和幸情報教育委員長から、LMS（授業支援システム）の紹介と本学において manaba course（ASAHI ネット提供の LMS、以下 manaba とする）を導入した経緯について説明がなされた。manaba は教室での講義を補助するものとして活用されており、授業連絡、教材・資料の配信、レポートの提出と返却等の学習支援の機能が備わっているといった特徴についても紹介された。また、本学では 2014 年度は試験利用実施として、18 教員 39 科目で利用しているとの説明がなされた。

続いて、実際に manaba の画面を示しながら、授業連絡や掲示板、教材を配置するページなど基本的な機能が紹介された。学生のアクセス状況や、授業連絡の確認状況も表示されるといった説明がなされた。具体例として、システム上で学生が回答し、自動的に採点されるといった小テストの作成方法についてシミュレーションがなされた。こうした機能に関心を寄せている教員も多いようであった。また、ポートフォリオの機能を利用すれば、学生は過去に受講した科目や提出した課題について確認することができ、専門科目の学習をする際に、基礎科目の復習が行いやすいといった点に期待していると述べられた。一方で、S-Navi！などのポータルサイトとログイン ID・パスワードが異なるために学生が混乱する場合があり、この点については改善が必要であるとの指摘もなされた。

樽磨委員長から具体的な活用方法の紹介がされた後、佐藤仁准教授より、実際に授業でレポートの添削指導に活用された事例について説明がなされた。佐藤准教授は授業中に学生から課題を提出させ、それを PDF 化したうえで manaba を通して返却することで、学生へのコメントを付加して結果についてやり取りしたとのことであった。また、各学生の平常点の状況も確認できるようにしたところ、学生からは、採点された答案や自身の平常点を随時確認できる点が評価されたようだ。さらに、提出した小テストの返却が半ば強制的になされることで、白紙の答案や例題の回答を書き写しただけの答案が格段に少なくなったとの利点も報告された。



続いて小磯かをる教授より活用事例が発表された。小磯教授は manaba を予習・復習のツールとして活用している。具体的には、授業の前日に予習用の問題を公開し、実際の授業でほぼ同じ問題の小テストを実施して予習した学生は高得点が得られることで、予習の定着をはかっているとのことであった。また、掲示板に「夏休みの感想」など簡単な英作文を書かせると、他の学生がその作文に対してコメントをするといった交流も見られると報告された。

事例紹介の後、樽磨委員長より、主体的な学修を促進する効果のあるシステムが LMS だと認識しており、教育機関の備えておくべき基本的な設備として導入され、広く活用されることを期待する旨が伝えられた。

以上が講演概要となるが､終了後も複数の教員から講師へ LMS の利用に関するより具体的な質問がなされていたようだ。平成 27 年度も引き続き試験運用が可能となっているため、今後より多くの先生方に活用されることを期待したい。



＊巻末資料として当日の資料を収録しております。ご参考までにぜひご覧ください。

## ２　有志による大学院夏期合同勉強会の実施報告

大学院地域政策学研究科　教授　西嶋 淳

2014 年 8 月 23 日（土）午後、本学研究棟 5 階ミーティングルームにおいて有志による夏期合同勉強会が実施された。筆者は世話役として本勉強会に参画していたので、以下ではその概要について報告する。

本勉強会は、院生（前期課程 2 年生）の修士論文執筆開始が年々遅れる傾向があることを憂慮された前田啓一教授の発案を受け、所属院生（ゼミ生）の研究テーマや科目履修等で関わりが強く、想いを共有されている閻和平教授、坂田幹男教授の賛同を得て試行的に企画されたものである。本学大学院が掲げる地域政策学は、領域横断的なアプローチが特徴である。例えば、地域経済政策専攻といえども、経済学だけでなく、公共政策学、公共経営学、中小企業研究、地域研究としての歴史学や文化論等を有機的に連関させながら理論と実践を融合させる問題解決志向の研究教育を目指しており、許容される研究テーマ領域は比較的広い。実際に各院生が設定する研究テーマも、アジアからの留学生が多いこともあって自身の身近な興味や問題意識を反映させる結果、多様性に富んでいる。他方、複数の学問・研究分野の思考を総合させることや理論と実践を融合させることは決して容易ではない。社会人院生として政策学系大学院で学んだ筆者の経験でも、自身の興味のある分野の調査・分析などは順調に進むが、修士論文の執筆を始めて関連する複数の学問分野の考え方を整理・調整したり理論と現実社会との兼ね合いを考慮したりする際に停滞する院生が少なからず見受けられた。そのような場合に、ひとつの契機となり得るのが、自分と異なる興味や思考を持つ研究者や院生との率直な交流であるように思う。いわゆる「ゆるい」研究会・勉強会の効能に期待を込めて試行したのが本勉強会の位置づけである。

上記を背景に、本勉強会は、修士論文への取り組み状況をありのままの報告してもらうことに主眼を置き、あえて残暑厳しい夏期休暇中に設定して各教員は所属院生に強制せず自主的な参加を促すことにした。報告形態については、各報告者持ち時間 20 分（報告 10 分・質疑 10 分）程度で方法は MS PowerPoint などによるスライド作成を求めず自由とし、配付資料についても目次案や書けた部分のみでも可とした。また、参加資格についても、本学大学院の院生・研究生であれば誰でも可とした。それでも当日 1 名が報告を辞退し、結局報告者は 4 名（全員 2 年生）であった。参加者自体は、院生・研究生については報告者を含め 11 名、教員については各報告者を指導する閻教授・坂田教授・前田教授に FD 委員会副委員長も務められる孫飛舟教授を加え筆者を含め 5 名であった。当日の報告内容から推察すると、報告者の取り組み状況には相当バラツキがあるように感じられ、本勉強会の効能も一様ではなかったと思われる。しかし、報告及び質疑そのものについては比較的率直に行われたため、幾らかの刺激を与える機会にはなったように感じている。

このような勉強会は、本来、参加によって直接利益を享受し得る院生側で企画してほしいというのが教員側の想いであるが、特に留学生の場合は研究活動に対する基本認識の違いも小さくなく、現実とのギャップは大きいといわざるを得ない。院生間で研究テーマが類似している場合には、関係学会への参加（傍聴）を求めて刺激を与えることも可能であるが、条件が整わないケースも多いと思われる。そのため、当面、このような勉強会について実施時期を含め試行錯誤を重ねていく必要があるように感じている。



最後に、この場をお借りして恐縮であるが本勉強会の参加者・関係者の皆様に御礼を申し述べたい。

## ３　授業アンケートの改善について

FD 授業アンケートワーキング

本年度は、授業アンケート調査を企業に外注して 4 年が経過したため、プレゼンテーションと入札により、外注先企業の刷新を行った。その結果、本年度より新しくパナソニックソリューションテクノロジーに外注することになった。

これまで授業アンケートについて、様々な先生からフィードバックを頂戴した。外注先企業が変わったことを契機に、これまで頂いたフィードバックを丁寧に精査しながら、更なる改善に取り組んだ。具体的には、パナソニックソリューションテクノロジーが開発を進めている授業アンケートを利用した授業改善のための仕組み作り（仮称パナソニックスタイル）を参考に、本学がこれまで授業アンケートで実施してきた項目を見直したところ、設問項目を 2 問追加するだけで、パナソニックスタイル適応できることが判明した。パナソニックスタイルを適応することにより、授業の改善に通じる有益な情報を提供することができる可能性が増すこと、そして従前のアンケート調査項目に 2 項目を追加するのみなので、過去のデータの利用価値が損なわれることがないという利点を鑑み、2 項目を追加して本年度の授業アンケートを実施した。ハイライト部分である Q5 と Q6 が今回追加したアンケート調査項目が表 1 に示されている。

表 1　H26 年度実施の授業アンケート調査項目

| 設問番号 | 設問 |
|---|---|
| Q1. | 関心が持てる内容である |
| Q2. | 教員の授業内容の説明はわかりやすい |
| Q3. | テキスト・板書・資料等が内容の理解に役立っている |
| Q4. | 成績の評価方法が分かりやすく示されている |
| Q5. | 自分がなぜ今、この授業を学ぶのか理解できた |
| Q6. | この授業を受けて、いろいろな視点から物事を見ることができるようになった |
| Q7. | 言葉が聞き取りやすい |
| Q8. | 熱意をもって授業をしている |
| Q9. | 計画的に授業をしている |
| Q10. | 私語をしている学生を適切に注意している |
| Q11. | 私語や居眠りをせずに授業に集中している |
| Q12. | 遅刻や途中退出をしていない |
| Q13. | 授業の内容をよく理解している |
| Q14. | 授業の予習・復習をしている |
| Q15. | 総合的にみて、この授業に満足している |

一方、本年度の授業アンケートのアウトプットのデザインおよびその解釈方法は、昨年度と大差ないが、従前のアウトプットに記載されていたアンケート調査結果に基づくコメントを廃止した。改従前はアンケート調査結果をある程度パターン化し、機械的にコメントを出力していた。一見テーラーメイドに思えるが、機械的にパターン化されているためか、完全なオーダーメイドとは言えず、有効なコメントになっていなかった可能性があることは否めない。そこで、今回は「＜参考資料＞授業改善のための取組み例」（付録参照）を作成し、各人がアンケート調査結果と「＜参考資料＞授業改善のための取組み例」を参照しながら、各教員自身が担当する講義に適応可能であると判断できる取組み例を選択して、有効であれば授業改善のために参考にしていただくというスタイルのアウトプットに変更した。

「＜参考資料＞授業改善のための取組み例」は、設問項目に応じて下記のような 6 つのアドバイスが記載されている。コメントとそれに関連する設問番号との関係は表 2 の通りである。

表 2　6 つの設問項目分類に関連するコメント

| コメント | 設問番号 |
|---|---|
| 1. 学生の注目、注意、知的好奇心を高める | Q1、8 |
| 2. 学生に学ぶ必要性を認識させる | Q5、6 |
| 3. 学生に「できる」という自信を持たせる | Q2、13 |
| 4. 学生の授業に対する満足度の向上 | Q4、15 |
| 5. 静粛な講義環境の構築 | Q3、7、9、10 |
| 6. 学生の集中力を高める | Q11、12、14 |

「＜参考資料＞授業改善のための取組み例」には、各コメントに対して、授業改善のための「取組み例」が記載されている。例えば、「1. 学生の注目、注意、知的好奇心を高める」効果が期待できる方法として、

- 画像や映像などマルチメディアを活用することで、学生に視覚的に印象付けたり、身近にある出来事を想像させたりすることとなり、学生が興味を引く可能性が高まります。
- 概念などについては、抽象的な表現よりも比喩やたとえ話でより具体的に表現することで、学生の注意を引きつけやすくなります。
- 質問を投げかけたり、問題解決が必要なグループワークを実施したりすることで、学生の探究心を刺激するような機会を増やすことができます。
- 話に変化をつける（抑揚、速度、まじめな話、ユーモアのある話など）ことにより、学生はより授業へ向けると考えられます。

が紹介されている。

今後も各教員より寄せられたフィードバックコメントを参考に、授業アンケートに継続的な改良を加えていくことが重要であると考える。



［付録 ］

## ＜参考資料＞

## 学生の学びを支援するための取組み紹介

ここでは、学生の学びを支援するための取組み例をご紹介します。設問ごとに参照項目を明記していますので該当項目をご覧頂き、今後の授業運営の参考としてご活用ください。この取組み例は授業によって実施が困難な場合がありますのでご了承ください。なお、本参考資料に掲載の取組みは（参考文献）「学習意欲をデザインする―ARCS モデルによるインストラクショナルデザイン」をもとに作成されています。

| 番号 | 設問 | 参照項目 |
|---|---|---|
| Q1. | 関心が持てる内容である | 1 |
| Q2. | 授業内容の説明がわかりやすい | 3 |
| Q3. | テキスト・板書・資料等が内容の理解に役立っている | 5 |
| Q4. | 成績の評価方法が分かりやすく示されている | 4 |
| Q5. | 自分がなぜ今、この授業を学ぶのか理解できた | 2 |
| Q6. | この授業を受けて、いろいろな視点から物事を見ることができるようになった | 2 |
| Q7. | 言葉が聞き取りやすい | 5 |
| Q8. | 熱意をもって授業をしている | 1 |
| Q9. | 計画的に授業をしている | 5 |
| Q10. | 私語をしている学生を適切に注意している | 5 |
| Q11. | 私語や居眠りをせずに授業に集中している | 6 |
| Q12. | 遅刻や途中退出をしていない | 6 |
| Q13. | 授業の内容をよく理解している | 3 |
| Q14. | 授業の予習・復習をしている | 6 |
| Q15. | 総合的にみて、この授業に満足している | 4 |

## １．学生の注目、注意、知的好奇心を高める

関連設問番号：Q1,Q8

学生の好奇心を高めることにより授業への集中力が高まり、学習意欲の向上につながる可能性があります。

**（取組み例）**

- 画像や映像などマルチメディアを活用することで、学生に視覚的に印象付けたり、身近にある出来事を想像させたりすることとなり、学生が興味を引く可能性が高まります。
- 概念などについては、抽象的な表現よりも比喩やたとえ話でより具体的に表現することで、学生の注意を引きつけやすくなります。
- 質問を投げかけたり、問題解決が必要なグループワークを実施したりすることで、学生の探究心を刺激するような機会を増やすことができます。
- 話に変化をつける（抑揚、速度、まじめな話、ユーモアのある話など）ことにより、学生はより授業へ注意を向けると考えられます。

## ２．学生に学ぶ必要性を認識させる

関連設問番号：Q5,Q6

学習内容が学生にとって必要である（役に立つ）と感じることができれば、学生はより授業に積極的に参加できると考えられます。

**（取組み例）**

- 学生に学習内容が将来どのように役に立つのかを具体的に説明することで、学生は学ぶ意義を明確に捉えることができます。
- 学生の関心の高い（親しみやすい）事例を用いることで、学生は学習内容を身近に感じ、学ぶ意欲が高まると考えられます。
- 学生の既存スキル、経験、知識に関連した内容や事例を引用することで、学生は学習内容により関心を持てるのではないでしょうか。
- 学習後に何ができるようになるのかを明確にすることで、学生は自分自身の目標達成にどのように役立つのかイメージすることができるかもしれません。

## ３．学生に「できる」という自信を持たせる

関連設問番号：Q2,Q13

学習に対する自信が持てれば、更に上位レベルへ挑戦する意欲へとつながります。

**（取組み例）**

- 学生が理解した内容について他の学生に説明するなど自己確認を行う機会を持つことにより、学生は更に理解を深めることができると考えられます。
- 難しい課題から投げかけるのではなく、易しい問題から取り組ませることで、学生は成功体験をすることができ、自信につながります。
- ひっかけ問題や非常に難解な問題があれば、その内容を見直してみることも大切です。
- 取り組んだ課題に対する評価をフィードバックしてあげると学生の自信につながります。

## ４．学生の授業に対する満足感の向上

関連設問番号：Q4,Q15

学習本来の楽しさを実感し、公平さを感じることができれば、学生は授業に対する満足感を得るのではないでしょうか。

**（取組み例）**

- 評価方法を明確にすることで、学生は授業評価の公平さを理解することができます。
- 学んだことを活かす場面を想像させることで、学生は更に満足を感じることができると考えられます。
- 公の場で褒めたり、目標達成に対しての報酬（修了証など）を用意したりすることで、学生の満足感は更に高まります。
- 学生が興味を引きそうな関連領域について情報提供をすることで、学生の学ぶ楽しさを促進、支援することができるのではないでしょうか。

## ５．静粛な講義環境の構築

関連設問番号：Q3, Q 7, Q 9,Q10

授業における教員の行動（振る舞い）を改善することは、学生が快適に授業を受けることにつながるかもしれません。

**（取組み例）**

- 講義中、学生の表情に注目する、問いかけをするなど、学生の理解を確認しながら授業を進めることも効果的です。
- 私語をしている学生を注意するなど、学生が学びやすい環境作りをすることも大切です。
- 重要なポイントはゆっくり説明したり繰り返したりするなど、速度や声のトーンに変化をもたせると、学生の集中力が増し、より理解することにつながります。
- 関連する情報や興味がありそうな情報などを補足資料として学生に提供することも大切です。

## ６．学生の集中力を高める

関連設問番号：Q11,Q12,Q14

学生が予習・復習を行い、授業へ積極的に参加し集中できるような工夫が大切です。

**（取組み例）**

- 学生が能動的に学べる討議や相互学習を用いることで、学生はより授業へ集中し、理解を深めることになります。
- 学生に質問を投げかけたり、質問を促したりすることは、学生の集中力の向上につながります。
- 授業の予習・復習を前提とするグループワークを用いることで、学生は予習・復習の必要性を認識し、学習に取り組めるのではないでしょうか。
- 宿題、課題が成績評価にどのように反映されるのかを明確にすることで、学生に予習・復習の重要性を理解させましょう。

---

（参考文献）「学習意欲をデザインする―ARCS モデルによるインストラクショナルデザイン」、 ジョン・M. ケラー (著), John M. Keller (原著), 鈴木 克明 (翻訳)、北大路書房 (2010/07)

# 授業支援システムLMSの機能と活用事例紹介

FD研修会 2014.10.15

樽磨和幸・佐藤仁・小磯かをる
（情報教育委員会）

大阪商業大学
Osaka University of Commerce

## 謝辞

2

- FD委員会
- フィールドワーク推進委員会
- 情報教育委員会
- 授業支援システムの試験利用に協力いただいている教職員の皆様

FD研修会 2014.10.15

# LMS

Learning
Management
System

学習管理システム／授業支援システム

3

FD研修会 2014.10.15

## 今日の内容

4

- はじめに
- LMSの機能
- LMS利用事例紹介
- おわりに

FD研修会 2014.10.15

# はじめに

## WBT型e-learning

6

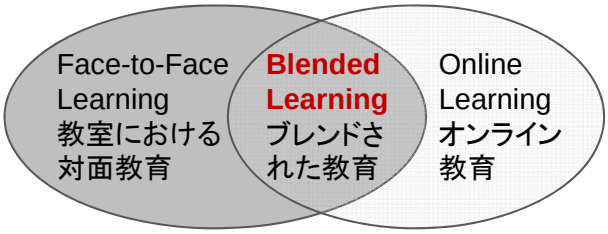
- Web Based Training
  - 事前に作成した自学用教材をWebサーバ上に配置
  - 利用者の自学自習をサポート
  - いつでもどこでも利用可能
  - 学習意欲の高くないものには使われない
  - 学習を途中で断念してしまう可能性

FD研修会 2014.10.15

## Blended Learning

7

- ある科目の教育プログラムの中に1部だけでもオンライン教育の要素を取り入れた教育方法



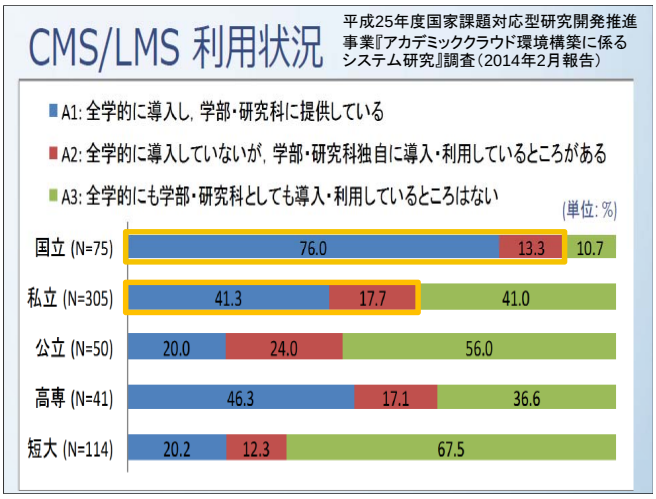



## LMS

8

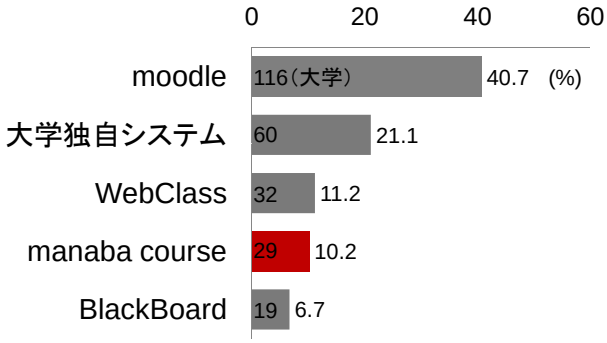
- 授業担当教員が授業期間中に随時教材をアップ
- 授業との連携を意識したシステム（授業前後の予復習／授業中の活用）
- CMS（Course Management System）






## 大学におけるLMS導入状況

10



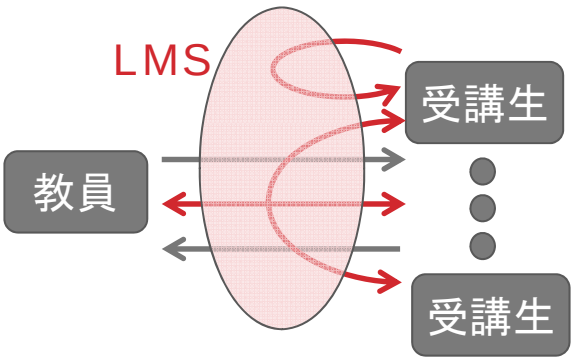

『高等教育機関等におけるICTの利活用に関する調査研究』（2014年2月報告）



# LMSの機能

## 授業担当教員と受講生のコミュニケーション

12



## LMSが備える機能

13

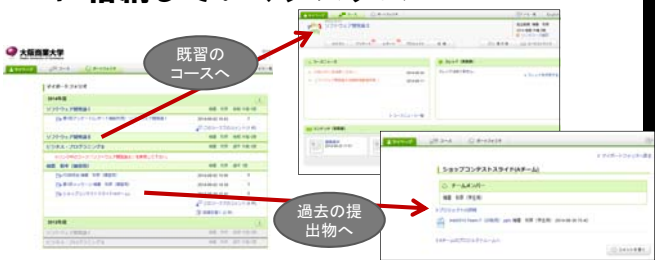
- **学習支援機能**
  - 授業連絡
  - 教材・資料の配信
  - レポート提出・返却（個別指導・相互閲覧）
  - 小テスト・ドリル（反復学習）
  - アンケート・クリッカー
  - 掲示板
- 成績の記録・参照
- 使用状況の確認
- e-ポートフォリオ

FD研修会 2014.10.15

## e-ポートフォリオ

14

- 学習過程の成果物（提出レポートやそれに対する教員の評価など）を自動的に格納していくシステム




## LMSの学習支援機能とコミュニケーションの方向

15

| LMSの機能 | 教員→受講生 | 受講生→教員 | 教員⇔受講生 | 受講生同士 | 受講生の自学 |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業連絡 | ○ | | | | |
| 教材・資料の配信 | ○ | | | | |
| レポート | | ○ 回収のみ | ○ 個別指導 | ○ 相互閲覧 | |
| 小テスト | | ○ | | | |
| ドリル（反復学習） | | | | | ○ |
| アンケート・クリッカー | | ○ | | | |
| 掲示板 | | | ○ | ○ | |

FD研修会 2014.10.15

## LMS利用事例



## 2014年度の取り組み

17

- 授業支援システム（LMS）試験利用実施
- LMS：manaba course（ASAHIネット）
- 約1,000アカウント
- 18教員39科目

FD研修会 2014.10.15

18

| 教員氏名 | 時期 | 科目名 | 履修人数 |
|---|---|---|---|
| 原田 禎夫 | 通年 | 演習Ⅰ | 22 |
| | 通年 | 演習Ⅱ（卒業論文含） | 22 |
| | 通年 | 演習Ⅱ（卒業論文含） | 12 |
| 和田 伸介 | 通年 | 工業簿記論 | 78 |
| 北室 康一 | 前期 | BP情報Ⅰ | 27 |
| | 後期 | 情報リテラシー | 28 |
| 松永 佳甫 | 通年 | 演習Ⅰ | 1 |
| | 通年 | 演習Ⅱ（卒業論文含） | 5 |
| | 通年 | 演習Ⅱ（卒業論文含） | 5 |
| 宍戸 邦章 | 通年 | 演習Ⅰ | 7 |
| | 通年 | 演習Ⅱ（卒業論文含） | 23 |
| | 通年 | 演習Ⅱ（卒業論文含） | 37 |
| 津村 修志 | 前期 | WEBイングリッシュ | 7 |
| 佐々木 尚之 | 通年 | 演習Ⅱ（卒業論文含） | 25 |
| 橋本 信子 | 前期 | ゼミナールⅠA | 42 |
| | 前期 | ゼミナールⅠA | 40 |
| | 後期 | ゼミナールⅠB | 21 |
| | 後期 | ゼミナールⅠB | 20 |
| 法雲 俊栄 | 前期 | プログラミングⅠ | 36 |
| | 後期 | プログラミングⅡ | 12 |
| 吹原 顕子 | 前期 | 英語ⅢA | 39 |
| | 後期 | 英語ⅢB | 42 |
| 高橋 美貴 | 前期 | デジタルメディア論Ⅰ | 170 |
| | 後期 | デジタルメディア論Ⅱ | 130 |
| 閻 和平 | 前期 | 都市経済学 | 128 |
| | 後期 | 住宅政策 | 25 |
| 小磯 かをる | 前期 | 英語ⅠA | 38 |
| | 前期 | 英語ⅠA | 21 |
| | 後期 | 英語ⅠB | 38 |
| | 後期 | 英語ⅠD | 21 |
| | 後期 | ゼミナールⅠB | 26 |
| 樽磨 和幸 | 前期 | ソフトウェア開発論Ⅰ | 16 |
| | 後期 | ソフトウェア開発論Ⅱ | 9 |
| | 通年 | ビジネス・プログラミングⅡ | 2 |
| 正木 幸子 | 通年 | 演習Ⅰ | 12 |
| 佐藤 仁 | 前期 | 情報科学概論 | 82 |
| | 後期 | ゼミナールⅠB | 27 |
| 塩塚 武康 | 通年 | 簿記原理 | 51 |
| 佐野 茂 | 前期 | ストレスマネジメント | 120 |
| 科目数 | 39科目 | のべ人数 | 1,467 |
| （内 前期／通年科 | 28科目 | | |

# 実例紹介
# 操作デモ




## ソフトウェア開発論 I

20

- 副専攻情報コース科目
- 木曜5限、前期、3年生以上
- 履修人数：18名
- 情報処理実習室使用
- 授業内容：Java言語によるオブジェクト指向プログラミング入門
  - 前半：例題学習（基本項目の解説）
  - 後半：課題学習

http://daishodai.manaba.jp

FD研修会 2014.10.15

## ログイン後の画面

21




FD研修会 2014.10.15

## コースページ

22




FD研修会 2014.10.15

## コースメンバーリスト

23




FD研修会 2014.10.15

## アクセス状況

24

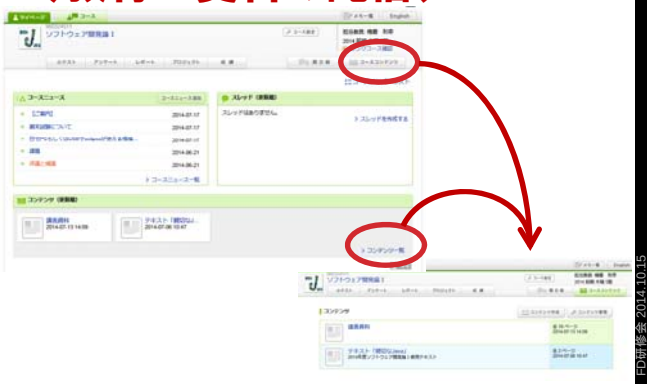



FD研修会 2014.10.15

## コースニュース（授業連絡）25



## コースコンテンツ（教材・資料の配信）26

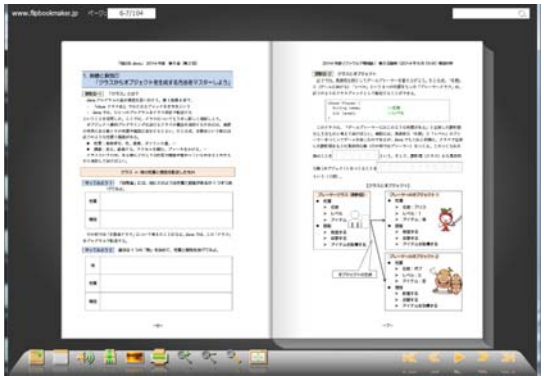




## 小テスト／ドリル 28



## 電子書籍（デジタル教科書）29



## ポートフォリオ 30



## アンケート

31




FD研修会 2014.10.15

## 学生の感想（抜粋1/2）

32

- 便利だと思った点
  - 確認の小テストがパソコンで解答し、提出できるので便利だなと思いました。
  - 小テストやアンケートなどをまだしていなかった場合にしていない数を表示している点
  - 成績の確認などもでき、とても見やすかった
  - 自宅でテキストが入手できるので、就活等で出席できなかった分をすぐに家で勉強できます。
  - スマホやパソコンで利用できるので便利だと思いまいた。
  - ショウナビよりも見やすく構成されていて、利用しやすかった。

FD研修会 2014.10.15

## 学生の感想（抜粋2/2）

33

- 不便に感じた点
  - 学籍番号とパスワードを打つのが多いです。
  - パスワードを何度も打つのが煩わしい
- その他
  - 個別に表示するのではなく1つの画面にすべて表示してほしい。
  - 樽間先生の授業以外では使ったことがないので、ほかの先生も使ってほしいと思いました。
  - manabaを利用してみて、情報コースの先生が作っただけあって、本格的で素晴らしいなと思いました。

FD研修会 2014.10.15

## 操作デモ

34

- コースコンテンツ作成
- 小テスト作成

http://daishodai.manaba.jp

使用テキストデータ




FD研修会 2014.10.15

# 佐藤先生の取り組み

### レポートの添削指導での利用

| LMSの機能 | 教員→受講生 | 受講生→教員 | 教員⇔受講生 | 受講生同士 | 受講生の自学 |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業連絡 | ○ | | | | |
| 教材・資料の配信 | ○ | | | | |
| レポート | | ○ 回収のみ | ○ 個別指導 | ○ 相互閲覧 | |
| 小テスト | | ○ | | | |
| ドリル(反復学習) | | | | | ○ |
| アンケート・クリッカー | | ○ | | | |
| 掲示板 | | | ○ | ○ | |

## 情報科学概論

36

- 月曜3限、前期、2年生以上
- 履修人数：82名
- 内容：情報科学の基礎（情報量（ビット）の定義とやり取り・論理回路・誤り訂正符号）→これらを取り扱う数学
- 活用方法：練習問題（手書きで解答）を授業中にさせて提出
  →採点結果のpdfと点数をmanabaで各人に提示

FD研修会 2014.10.15

## manaba使用の動機

37

- 毎年、授業中の課題を採点して希望者に返却しているが、ほとんど受け取りに来ない（1割程度）
  →
  ★採点済み答案を確認させ、復習を促したい
  ★平常点の確認（成績評価の割合：平常点 10%、試験 90%）



## manabaのレポート提出・返却機能

38

- manabaには、オンラインレポート提出とそれに対するコメント機能（添付ファイルOK）があるので、提出課題をpdf化し、添付ファイルとして返却

http://daishodai.manaba.jp



## manabaのレポート提出・返却機能

39






## 本年度の実施結果

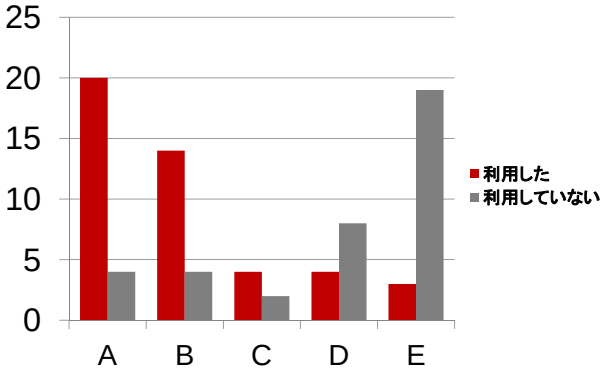
40

- 受講生　82名
- 一度でもmanabaを利用したもの　45名
  （内42名が3回以上課題提出）
- 課題は計6回行った
- 授業中の練習問題を提出している者は、50名程度
  （提出しているがmanabaを利用していないものは、4年生が多い）
- 結果のpdfは、1週間程度でmanabaに挙げている



## 成績とmanaba利用の有無

41






## 学生の感想・考察

42

- 学生の感想の例：
  ・採点された答案の確認がいつでもできる
  ・現在の平常点がわかる
  ・ログインパスワードが多くて使いにくい
  ・使わなくても特に困らない
- 効果と問題点：
  ・課題に取り組む姿勢の向上が見られる
  ・学生からの質問の増加
  ・試験の出来はあまり変化なし
  ・利用方法をより簡便に

# 小磯先生の取り組み

## 掲示板・レポート機能の利用



| LMSの機能 | 教員→受講生 | 受講生→教員 | 教員⇔受講生 | 受講生同士 | 受講生の自学 |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業連絡 | ○ | | | | |
| 教材・資料の配信 | ○ | | | | |
| レポート | | ○ 回収のみ | ○ 個別指導 | ✓ ○ 相互閲覧 | |
| 小テスト | | ○ | | | |
| ドリル（反復学習） | | | | | ○ |
| アンケート・クリッカー | | ○ | ✓ ○ | ✓ ○ | |
| 掲示板 | | | ○ | ○ | |

44

## 英語ＩＡ

- 水曜2限、前期、1年生
- 一般教室使用
- 受講者数：21名

http://daishodai.manaba.jp

FD研修会 2014.10.15

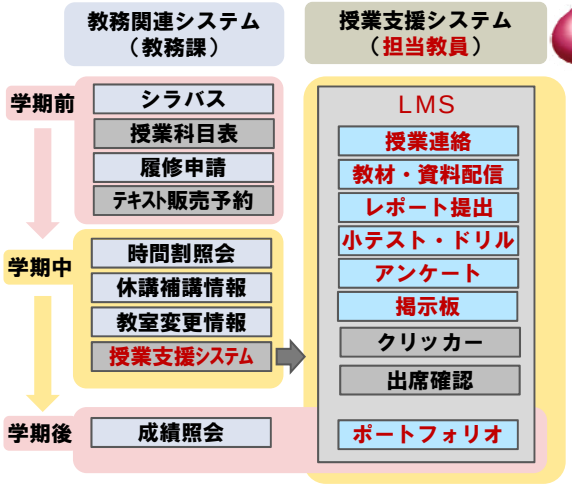
## 学生の感想（抜粋）

45

- 便利だと思った点
  - 皆さんの英文が見れて、一人一人考え方が違うんだなと改めて思いました。
  - 間違っていたらコメントを書いてくれるところ
  - いつでも提出ができるという点。
  - いつでも観覧できる点。
  - 家からでも提出できるのが便利
- 不便だと感じた点
  - 英文を完成させるのに時間がかかる。送信ができない。
  - 紙で提出するより文字を打つのに時間がかかる
  - インターネットなので、見れなかったりするトラブルがあるところ。
  - 電池なくなる

FD研修会 2014.10.15

# おわりに




47

FD研修会 2014.10.15

## 私立大学情報教育協会（2012）「大学教育への提言」より

48

主体的な学修を促進する場として、学内LANのWebサイトに授業科目ごとに教材・資料の提示、小テスト等による理解度確認、授業の事前準備・事後の展開での資料下調べ、学生同士の教え合い、教員への質問、授業内容の確認などを行う学修支援システムを設けることが不可欠である。

大学教育への提言－未知の時代を切り拓く教育とICT活用(2012)，公益社団法人私立大学情報教育協会.

FD研修会 2014.10.15

## 印刷機とLMS

49

- 使用は強制されない
- すべての教員（専任・非常勤）、すべての科目に開放
- 教員が使用したい回に使用可能
- 内容は教員の裁量で

## 授業支援システム

50

- すべての教員が
- すべての科目で
- 希望するときに
- 希望する機能を

利用できる。

## まとめ

51

- LMSの機能を紹介した
- LMSを用いたブレンデッドラーニングの事例を紹介した

## 参考文献

52

大学教育への提言－未知の時代を切り拓く教育とICT活用（2012），公益社団法人私立大学情報教育協会.
『高等教育機関等におけるICTの利活用に関する調査研究』委託業務成果報告書（2014），京都大学.
『コミュニティで紡ぐ次世代大学ICT環境としてのアカデミッククラウド』成果報告書（2014），九州大学.

## 参考サイト

53

- manaba course, https://manaba.jp/ja/about-course/
- 大学教育への提言－未知の時代を切り拓く教育とICT活用（2012），公益社団法人私立大学情報教育協会.,
http://www.juce.jp/LINK/teigen.html

大阪商業大学　ＦＤニューズレター　第１５号
発行日：2015年3月25日
発　行：大阪商業大学ＦＤ委員会
〒577-8505　東大阪市御厨栄町 4-1-10
Tel 06-6781-8816　　Fax 06-6781-8438